

年齢に合った **しつけ** をしよう

- ★ 母親に依存しながら心の基礎をつくる0歳児、
自我の心が芽生える1～2歳児、
自分の意志を通そうとする3歳児、
なぜかということがわかり始める4歳児。

子どもの **年齢に合ったしつけ** をしよう。

…小児科医、内藤寿七郎先生の言葉より…



★0歳児 — 心の土台づくりが赤ちゃんのしつけ

- ・声かけや抱っこをいっぱいして、赤ちゃんと心を通わせ信頼関係を築きましょう。
- ・あやすとよく笑う — 赤ちゃんの心の中に **信頼感でいっぱいの心の土台** ができた証です。
- ・**人見知り** が始まったら「いつもそばにいるよ」と安心させてあげましょう。

★1～2歳児 — めばえた自我を育み、意欲を育てよう

- ・1～2歳児は、自我がめばえ、やる気満々です。がまんは、まだできません。
安全に気をくばり、思いっきりやりたいことをさせましょう。
- ・やりたいことをする中で、自分のことは自分でしようとする意欲が育ちます。
- ・**叱ってしつける必要はありません**。伝えたいことは、目を見ながら教えましょう。

★3歳児 — 親が手本となる態度を見せよう

- ・3歳児は、自分の思うように積極的に行動します。できるだけ見守ってあげましょう。
- ・**親が手本となる態度を見せてやることから「しつけ」が始まります。**
あいさつ、言葉づかい、公共の場所でのふるまいなどをまねて、だんだんと学んでいきます。
- ・「かたづけなさい」と口先だけで命令してもけっして言うことをききません。
目で見せて、耳で教えて、させてみて、ほめてあげましょう。

★4～5歳児 — 心のつながりの中で、「言葉によるしつけ」を始めよう

- ・子どもと遊んだりお手伝いをさせたりしながら、心のつながりを深めていきましょう。
- ・親子の信頼関係の中で、**言葉によるしつけ** を始めましょう。
- ・社会のルールや人としてのマナーを教え、**良心の芽** を育てていきます。